

番 号 : 130880

国 名 : カンボジア

担当部署 : 資金協力業務部実施監理第3課

案件名 : カンダルスタン灌漑施設改修計画 (入札支援)

1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務 : 入札支援
- (2) 格 付 : 3号
- (3) 業務の種類 : 調査団参团

2. 契約予定期間等

- (1) 全体期間 : 2013年10月上旬から2013年11月中旬まで
- (2) 業務M/M : 国内 0.20M/M、現地 0.80M/M、合計 1.00M/M
- (3) 業務日数 : 準備期間 2日 現地業務期間 24日 整理期間 2日

3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、場所

- (1) 簡易プロポーザル提出部数 : 正1部、写4部
- (2) 見積書提出部数 : 正1部、写1部
- (3) 提出期限 : 9月18日(12時まで)
- (4) 提出場所 : 調達部受付 (JICA本部1F)

4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針 :
 - ①業務方針の的確性 6点
 - ②業務方法の整合性、現実性等 12点
 - ③当該業務実施上のバックアップ体制 2点
- (2) 業務従事者の経験能力等 :
 - ①類似業務の経験 40点
 - ②対象国又は同近隣地域若しくは同類似地域での業務経験 8点
 - ③語学力 16点
 - ④その他学位、資格等 16点

(計100点)

類似業務	灌漑施設整備に係る各種業務
対象国/類似地域	カンボジア/全途上国
語学の種類	英語

5. 条件等

- (1) 参加資格のない社等：特になし
- (2) 必要予防接種：なし

6. 業務の背景

カンボジア国カンダール州カンダルスタン地区はメコン河の支流、プレク・トノット川沿いの肥沃な低平地に位置し、高い農業ポテンシャルを有している。また、国道2、3号線沿いに位置し、首都プノンペンの食糧基地としての役割を担っている。同地区にはポル・ポト時代に建設された灌漑施設があったが、施設の損傷・老朽化が激しい上、幹線水路は法面の浸食が著しく、水路内に土砂堆積が進行しており、また、水路勾配や施設の設計が不適切なため、灌漑地区末端まで灌漑用水が十分に供給できない状況にあった。そのため、同地区の営農環境は、天水下の栽培条件と大差ない状況にあり、栽培可能な在来種水稻の単作を強いられており、その生産ポテンシャルを十分に発揮出来なかった。

このような背景の下に、カンボジア政府の要請により、日本国政府はプノンペン周辺地域における灌漑施設整備を中心とした農業総合開発計画の策定を目的とする開発調査「プノンペン周辺地域農村総合開発計画調査」(1994-95年)を実施し、その結果、カンダルスタン地区(1,950ha)が優先開発地区として選定された。右調査結果に基づき、カンボジア政府は、同地区の灌漑用水の安定的確保を図ることを目的に、無償資金協力「カンボジア国カンダルスタン灌漑補修計画」を要請し、2004年灌漑施設の改修が実施された。(E/N署名：2005年度、詳細設計を含む合計供与限度額17.84億円。計画対象面積：1,950ha、協力内容：頭首工新設工、既存堰・調整水門改修工、灌漑施設改修工(幹線水路(計画延長5.3km)及び付帯構造物、二次水路用維持管理道路))

同施設完工後、改修された主幹線水路(総施工延長5.3km)の上流部において、当初予見できなかった特異な土質(膨潤性土壌)が原因と想定される水路のライニングコンクリートパネルの孕み等の変状が発生した。通水機能に支障を生じさせるまでの変状には至っていないものの、右状況を放置しておくことは長期的には水路全体に及ぶ崩壊の広がりや機能不全を招く恐れが懸念される状況となっている。

日常的な維持管理はカンボジア側にて対応してきたものの、水路上流部全体の修復工事の実施は困難であることから、本修復工事に対するフォローアップ協力要請が提出された。

本修復計画の策定に際しては、基本設計調査及び詳細設計調査並びに施工監理を行ったコンサルタントにより、変状の原因究明及び修復計画の検討に関する調査(以下、コンサル調査)が行われ、同調査結果に対し、本邦の公的な第三者機関による検証を行った上で、修復計画を策定した。

また、本F/U協力を実施するに当たっては、コンサル調査結果に基づき設計・入札図書を作成を行い、当機構カンボジア事務所が修復工事を行う現地施工業者の選定のた

めの入札を行う。同入札に対し、入札評価及び契約交渉の技術的な側面からの支援を行うことを目的に本コンサルタント団員を派遣する。

【F/U協力の概要】幹線水路コンクリートライニング修復工事（以下「修復工事」） 合計 1.8km（距離の若干の変更の可能性あり）：仮設工、ライニング土工、ライニング（コンクリートブロック張工）

7. 業務の内容

本業務の業務従事者は、無償資金協力事業におけるフォローアップ協力の仕組み及び手続き並びにコンサル調査結果を十分把握の上、機構カンボジア事務所と協議・調整しつつ、同事務所の実施する修復工事の施工業者選定のための入札に対し、技術的な支援を行う。

具体的担当事項は次のとおりとする。

（1）国内準備期間（2013年10月上旬）

- ①コンサル調査結果及び同調査結果に基づき作成中の設計・入札図書をもとに、修復工事の背景・内容、入札手続きを把握する。
- ②対処方針会議等に参加する。

（2）現地派遣期間（2013年10月上旬～10月下旬）

- ①機構カンボジア事務所等との打合せに参加する。
- ②在カンボジア日本大使館との打合せに参加する。
- ③カンボジア側関係機関との協議に参加し、修復工事の内容及び入札手続きの説明を行う。
- ④現場説明会に参加し、応札予定社に対して修復工事の内容及び入札手続きの説明を行う。
- ⑤機構カンボジア事務所が行う修復工事に係る入札において、入札評価を技術的な側面から支援する。具体的には、主に以下の事項につき、応札書類について技術的な評価を行う。

ア) 施工業者の資格審査

- (a) 企業形態
- (b) 財務状況
- (c) 工事实績
- (d) 技術者数

イ) 応札書類の技術審査

- (a) 工程計画
- (b) 施工要員計画

- (c) 工法計画
- (d) 建設機材投入計画
- (e) その他入札書類で定める事項

ウ) 応札金額の分析

予定価格と応札金額の比較分析による応札金額の妥当性の検証

- ⑥⑤の評価結果に基づき、担当分野に係る入札評価報告書(案)(和文・英文)を作成し、評価報告書(案)全体のとりまとめに協力する。
- ⑦施工業者との契約交渉に参加し、入札評価結果等に基づき、技術的に確認が必要な事項を確認する。

(3) 帰国後整理期間(2013年10月下旬～11月上旬)

- ①帰国後1週間以内に、現地派遣期間中に行った業務に関する報告書を取りまとめ、JICA資金協力業務部に対し報告を行う。

8. 成果品等

本契約における成果品は以下のとおり。

- (1) 現地業務結果報告書(和文)
電子データをもって提出することとする。

9. 見積書作成に係る留意点

本公示の積算を行うにあたっては、「JICAコンサルタント等契約見積書作成の手引き(<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)を参照願います。留意点は以下のとおりです。

- (1) 航空賃及び日当・宿泊料等
航空賃及び日当・宿泊料等は契約に含みます(見積を計上して下さい)。航空賃については、成田(日本)ープノンペン(カンボジア)間のみを計上して下さい。国内の移動については、カンボジア事務所が手配します。

10. 特記事項

- (1) 業務日程／執務環境
 - ①現地業務日程
現地派遣期間は2013年10月上旬～10月下旬を予定しています。
 - ②現地での業務体制
当機構カンボジア事務所の行う入札支援のため、本邦からの他団員の派遣はありません。事務所の担当次長及び調達担当次長の指示の下、入札支援業務を行います。
 - ③便宜供与内容
当機構カンボジア事務所による便宜供与事項は以下のとおりです。

- ア) 空港送迎
あり
- イ) 宿舎手配
あり
- ウ) 車両借上げ
全行程に対する移動車両の提供
- エ) 通訳傭上
なし
- オ) 現地日程のアレンジ
機構がアレンジします。
- カ) 執務スペースの提供
なし

(2) 参考資料

本業務に関する以下の資料を当機構資金協力業務部実施監理第3課 (TEL:03-5226-9233) にて閲覧可能とします。

- ・コンサル調査結果報告書 (抜粋)

本業務に関する以下の資料が当機構図書館のウェブサイトで公開されています。

- ・カンボジア国 カンダルスタン灌漑施設改修計画基本設計調査報告書 (2004年)

(3) その他

- ①業務実施契約 (単独型) については、単独 (1名) の業務従事者の提案を求めている制度ですので、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とさせていただきます。